第11回　北九州市安全･安心推進会議　会議要旨

1 日 時　　令和6年2月5日(月)14：00～15：30

2 場 所　　西日本総合展示場 AIM ビル3階　314･315会議室

3 出席委員数　26名

4 議 題

（1）　北九州市安全･安心条例第2次行動計画の進捗状況について
（2）　北九州市安全･安心条例第3次行動計画の方向性について
（3）　その他

5 主な意見

委 員

他地域の人に北九州市の印象を尋ねると、まだ印象が悪いと思っているようだが、安全･安心の情報発信について、どのような取り組みをしているのか。

事務局

北九州市の治安のよさについて、安全･安心PRイベントや、新聞や情報誌等の各種メディアを活用して、市外の他地域に対してアピールし、都市イメージの向上を図っている。引き続き、あらゆる機会や媒体を活用し、効果的な情報発信に努めてまいりたい。

委 員

北九州市安全･安心条例が制定されて10年経った。様々な努力があり、安全･安心のイメージが向上したのは成果だと思う。安全･安心がまちの発展の根幹であり、日本の中でも成功事例として評価できるのではないかと思う。しかし、北九州市安全･安心条例第16条「安全に配慮した環境の整備について」、年々意識が薄れてきていると思う。「犯罪の機会を減らす」ということで、知恵を使って犯罪が起きにくい環境を市全体に広げていくことが大切である。

委 員

公園愛護会は、地域の住民の高齢化により、活動が困難な部分がある。若い人の活動参加を推進するために、行政の力が必要だと思う。また、1月1日に能登半島地震が発生した。市の職員も現地に行っているが、我々も何かボランティアができればと思う。

委 員

能登半島地震について、旧耐震基準以前の家屋が多く倒壊していた。例えば、改修工事などで普段からの備えが必要だと感じた。また、避難所の運営について、普段から準備をし

ている避難所の運営は円滑だったが、準備をしていない地域は、うまく対応できなかったようだ。普段から準備をすることが大切だと思った。安全・安心の確保という点では、災害時だけでなく、防犯も同じく普段から考えておくことが大切だと思う。公園の管理について、金沢市では指定管理制度により主要な公園の管理がされている。北九州市の公園愛護会も素晴らしい制度だが、プロの力も活用し、行政が支援していくといった組み合わせも必要かもしれない。

事務局
公園愛護会について、地域の方の高齢化により継続が困難であるという現状は認識している。現在、地域周辺の民間企業やNPOができないかと検討しているところである。若者については、検討していたが大学生や高校生は学業との兼ね合いで、なかなか難しいということもあった。また、指定管理については、大きな費用がかかることもあり、公園愛護会をいかに継続していけるかに注力していきたいと考えている。公園整備については、安全・安心な公園となるよう、地域の声を聴きながら整備しているところである。予算の関係上、全ての公園で遊具の配置転換や植栽の整備を行えているわけではなく、できるところから取り組んでいく。

事務局
能登半島地震に関して、市の支援として、物的支援、人的支援、経済的支援を行っている。活動の中で、地域の特性もあり、活動拠点が非常に厳しい状態であることが大きな課題となっている。順次、克服しながら復旧復興に向けて尽力していきたい。避難所の運営等については、日ごろからの準備が重要である。コロナ禍が明け、集合訓練を再開している。

委　員
安全・安心は横の連携が非常に重要である。

委　員
防犯カメラに映った情報から、警察から捜査依頼があるが、画質がよくないため、調査にかなりの時間を要し、人手不足もあるため、なかなか厳しい状況である。精度の良い防犯カメラの設置をお願いしたい。

委　員
現在は、カメラの精度も上がってきているものもある。予算の許す限り、関係者と相談しながら防犯カメラを設置している。これからも充実させていけるよう努力してまいりたい。